

第III卷・第1號 近畿甲蟲同好會

(通卷第8號)

會 報

昭和23年1月

昭和二十三年一月二十一日印刷
昭和二十三年一月二十五日發行

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
振興會 大 倉 正 文
大坂市旭區新森小路中二丁目九四
印刷所 宏 榮 社 印 刷 所
兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
大倉正文方
發行所 近 畿 甲 蟲 同 好 會

THE TRANSACTIONS OF
VOL. III, NO. 1. THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY

JAN. 1948.

野尻湖畔の甲蟲類 (1)

歩 行 蟲 類

中 根 猛 彦

ON THE COLEOPTEROUS INSECTS OF NOZIRI.

(N. SINANO, JAPAN.) (I)

THE GEODEPHAGOUS COLEOPTERA.

By TAKEHIKO NAKANE.

この群の採集品は種數、個體數共に少いが一先づまとめて報告しておきたいと思ふ。調査にあたって文献、同定その他いろいろな點で戸澤信義氏をはじめ湯淺啓溫、竹内吉藏、阪口浩平、黒佐和義、福貴正三、大倉正文、加藤信子等の方々の御援助を得た。こゝに厚く御禮申し上げる。又、常に私を庇護し勵まして下さる佐藤忠雄先生の御厚意に對しても深く感謝しなければならない。

以下に於ては二三の箇所を除き族毎にアルファベット順に排列し、各種について採集した月をローマ數字で示し、圖の出てゐる圖説類を次の略號で示した。

a1—日本の甲蟲 1930; a2—續日本の甲蟲 1931(横山桐郎); b—日本通俗昆蟲圖説(3) 1931(松村松年); c—日本昆蟲圖鑑1933(横山); d—日本昆蟲大圖鑑1933(松村); e—原色日本昆蟲圖鑑(9) 1933(加藤正世); f—原色甲蟲圖譜 1933(神谷・安立); g—原色日本昆蟲圖説 1939(堀浩); h—原色甲蟲圖譜 1940(平山修次郎)。

尙今までに餘り邦文で記載されたことのないものには大体原記載にしたがつて簡単に記述し、一部のものには略圖を加へた。又、亞屬名のわかつてゐるものは Carabus の様によく知られたもの他は記述の終に附記しておいた。その中には亞

屬としての價值に疑のあるものもある。Synonym は日本に關係のある様なものをあげるに止めた。×印のものは記録及び控によつて附加へたが現在標本を持たない。

[ADEPHAGA—GEODEPHAGA, 食肉亞目—陸棲類。]

CICINDELIDAE. はんめう科

日本産のこの科のものは三輪博士⁵²⁾※によつてまとめられてゐる。

1. *Cicindela chinensis* DEGEER, 1774 ハンメウ

a1, b, c, d, e, f, g, h. VIII.

2. *Cicindela japana* MOTSCHULSKY, 1857 ニハハンメウ

a1, b, c, d, e, f, g, h. VII, VIII. この種の性徴、斑紋については澤野氏⁵⁴⁾の報告がある。尙、上唇前縁中央の齒は雌に於て鋭い。

3. *Cicindela ovipennis* BATES, 1883 マガタマハンメウ

a2, b, c, d, e, f, h. V—VIII. この種の形態、分布等については馬場氏³⁷⁾の報告がある。野尻では林間の落葉等の上を歩いてゐる。戸隠で捕へた1雄 (26. VIII. 1940) には馬場氏の圖示した様な肩紋が認められた。

CARABIDAE. をさむし科

Carabinae. をさむし亞科

Carabini. をさむし族

- ×4. *Calosoma Maximowiczii* (MORAWITZ, 1863) クロカタビロチサムシ

(Syn. *mikado* BATES). a2, b, c, d, e, f, h (*Calosoma Maximowiczii* MORAWITZ).

VII. 故古莊義郎氏採集。

5. *Carabus (Damaster) rugipennis fortunei* ADAMS, 1861 アラマヒマヒカブリ

h. IV, V, VII. この類については馬場氏^{38, 39)}の研究がある。野尻のものは雄の前跗節下に毛叢を有してゐるので上記種に屬するが色彩は *oxuroides* 系に類似してゐる。本種の同定は黒澤良彦氏によつたものである。

6. *Carabus (Hemicarabus) tuberculatus* DEJEAN et BOISDUVAL, 1829 セア

カタサムシ

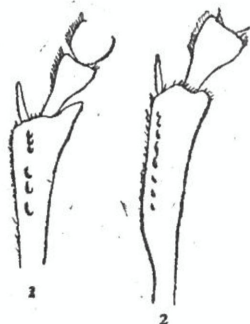
(Syn. *tuberculatus* FISCHER-WALDII, *granosus* CHAUD.). a2, b; c, d, f (*tuberculatus* FISCHER); e, h (*tuberculatus granosus* CHAUDOIR). VII. 今岡純雄君採集 (1雄)。

亞屬 *Hemicarabus* は REITTER³²⁾ によると前脛節の外端部が尖つて突出すること (fig. 1), 大腿が短く、下唇鬚の亞末端節に2本しか剛毛がないことで他と區別できる。戸澤氏⁵⁷⁾が示した“前脛節の外縁は針狀突起を列らぬ。觸角第5節は毛を欠いで居る”と云ふ特徴は採用できない。

※ 文献番號を示す。以下同様。

※※ 從來 *Ohmopterus* として紹介されてゐるが (SIKI^{13a)} と Zool. Rec. (1896) によると *Ohmopterus* が正しいらしい。

7. *Carabus* (*Ohomopterus*) *Albrechti* MORAWITZ, 1862—クロササムシ
b, h??. VII, VIII. “背面は銅光澤があり、頭頂は滑らか、胸背側縁は圓まり、後角
の前で波曲し、基部は弧狀に彎入する。上翅は規則的に明かに條刻され、間室は細
く隆まり、第4・8・12間室は鎖線狀をなす。”



MORAWITZ²⁰⁾の記載によく一致した。原記の体長は22—23½mm.とあり、野尻⁵⁷⁾では20(雄), 22(雌)mm.であつた。戸澤氏⁵⁷⁾は25—30mm.としてゐる。北方山地でマヤサンラサムシとされてゐたものの一部はこの種ではなからうか。この種の雄の前脛節は内側中邊より先端へ急に太さをますがその界目の角は通常圓い(fig. 2)。マヤサンラサムシでは之が角をなし、脛節は赤褐色を呈する。BATES¹¹⁾は *C. Maiyasanus* の項で “It is agreed to be a mountain variety of the southern form of *C. Albrechti*.” と記してゐる。但し藤田⁴⁵⁾によれば

Maiyasanus は北海道にも産する。

8. *Carabus* (*Ohomopterus*) *insulicola* CHAUDOIR, 1869 アヲササムシ
(Syn. *Kaempferi* THOMS.). a1, b, c, d, e, f, h. VII, VIII. BATES¹¹⁾によるとこの種の分布は琵琶湖から青森の間で *C. DeHaani* CHAUDOIR, 1848 の分布が岐阜近郊(伊賀氏による。BATES は琵琶湖の南から鹿児島とした)より四國、九州にわたるのと比べ興味がある。稀に紫黒色で縁が緑のことがあると云ふ。

Scaritini. へうたんどみむし族

9. *Dyschirius aeneus* (DEJEAN, 1825) ダイミヤウハマベゴミムシ
(Syn. *daimiellus* BATES). VIII. この種は本邦産の他の *Dyschirius* とは頭盾と前頭の界が中央でたてに隆つており、之が中央で後へ向つて角をなす線(側方は溝をなす)で區切られてゐる點で區別できる(fig. 3)。銅黒色で胸背の側部は後の孔點の後方まで縁取られ、上翅の肩部には突起なく、第3間室には3孔點を有し、翅端に孔點を伴ふ1小溝がある。前脛節外側下面には端棘基部に1小齒と中央邊に弱い1小齒がある。觸角基方は赤褐色、肢も赤褐で前肢はやゝ暗色。3—3.5mm.



Harpalinae. ごみむし亞科

Trechini. ちびごみむし族

10. *Trechus ephippiatus* BATES, 1873 ヒラタキイロチビゴミムシ

VIII. 長卵形、褐色で光澤がある。上翅は赤褐で中央に會合線を挟んで大暗色

紋を具へる。鬚と肢は淡黄褐。胸背は横長の方形で後方へ少しく狭まり、後角は鈍くて角は軽く突出する。側部は軽く圓まる。上翅は各4條刻を強く印せられ、條刻は點刻される。5mm, 内外。(Subg. Epaphius STEPH.?).

var. aegrotus BATES, 1873 全体淡黄褐色。〔神谷⁴⁰⁾ Pl. VII, f. 9, p. 61.〕

Bembidiini. みづきはごみむし族

11. Asaphidion semilucidum (MOTSCHULSKY, 1861) メダカチビカハゴミムシ
(Syn. nubifer MORAW.). al, c. VIII.

×12. Bembidion leucolum BATES, 1883 アチヘリミヅギハゴミムシ

“長卵形、暗銅色、縁部は金綠色。鬚・觸角・肢は黒褐、跗節は黄褐。前頭の波曲した溝は略々平行、溝と眼の間に毛を有する大點刻がある。胸背は幅廣き方形、基部前で波曲し狭まる。後角はやゝ尖る。基部の凹みは後角に沿つた隆線と共に著しい。上翅はかすかに隆まり、點條刻され、第3—7條は端部で不明になる。第8—9條は分離するが翅端前で廣い溝になり合する。腿節は太い。5.5mm.”
(Subg. Chlorodium MOTSCH.).

13. Bembidion niloticum DEJEAN, 1831 アトモンミヅギハゴミムシ (Pl. I, fig. 4.)

b?, 戸澤⁵⁰⁾ Pl. 2, f. 5, p. 18. VIII. 背面は金銅色で時に綠光澤をおびる。暗褐でやゝ光澤がある。鬚・觸角基部3, 4節・肢は多少共黄褐色。翅端及び翅端に近い側部の斑紋(時に合一して弦月形をなす)は淡黄。頭部兩側には前方へ互に收斂する深い縦溝があり頭盾の前部に達する。胸背は心臟形で側部は強く圓まり、後方へ著しく狭まり、後角は鋭い直角の齒をなす。上翅は卵形で明かに點條刻され、第2條刻より外方のものは翅端に於てかすかになる。間室は平たい。微細構造は等徑的(isodiametric)で著しい。3.5—4. mm.

印度支那あたりから日本へかけて分布するものに對して Batesi PUTZEYS, 1875と云ふ型名が用ひられることがある。之はたゞ上翅の端紋が擴大してゐることによつて原種と區別される。(Subg. Notaphocampa NETOLITZKY).

14. Bembidion stenoderum BATES, 1873 ドウイロミヅギハゴミムシ (Pl. I, fig. 5.)

a2, c?²⁷⁾ (oxyglymma BATES). VIII. 背面金銅色、觸角基部と肢は赤褐で一部に銅光澤を有する。胸背側縁は中央より前方へ狭まり、後縁側部は斜に切斷狀、後角は突出する。上翅は明かな條刻を具へ、第3間室は著しく幅廣く、各々に金屬光澤を有する方形の2凹陷があり、各前部に剛毛を伴ふ孔點を有する。背面は明かな微細構造を示す。5mm. 内外。土生氏⁴¹⁾は圖鑑に出てゐるヒメミヅギハゴミムシ C. oxyglymma BATES, 1883がこの種であらうことを指摘された。(Subg. Chrysobracteum NETOLITZKY).

15. Bembidion thermarum MOTSCHULSKY, 1845 ナガミヅギハゴミムシ
(Pl. I, fig. 6.)

VIII. 背面暗褐色で青銅光澤をおびる。各上翅の側方の後方より1/3の所にある

短卵形の固紋・肢・觸角基方2節及び第3・4節の基部・小腮・下唇鬚は黄褐色。頭部は滑らかで額兩側には深い縦溝があり、その後方及び頂部には強い點刻を散在する。胸背は長さより幅わづかに廣く、心臟形で強く後方へ狭まり、後端前方で波曲する。後角は鋭い直角。背面は滑らかで正中線は明か。基部には強い點刻を散布し、兩側に深い凹陷を具へ、その外側後角に接して小隆線を形造る。上翅は明かに點條刻され、第2條以下は(第8條を除き)翅端近くでかすかになる。第5條は翅端で急に深まり、小溝を形造る。間室は滑らかで略々平たく、第3間室には第3條刻に接して2孔點を具へる。4.5mm. B. *elongatum* DEJEAN, 1831 として BATES⁹⁾ の記録したのはこの種であらう。(Subg. *Peryphus* STEPHENS).

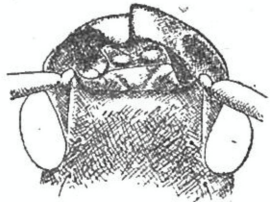
Panagaeini. よつぽしごみむし族

- ×16. *Panagaeus japonicus* CHAUDOIR, 1861 ヨツボシゴミムシ
(Syn. *rubripes* MORAWITZ). a1, c, e, f, h. VII.

Licinini. すなはらごみむし族

17. *Badister nigriceps* MORAWITZ, 1863 クロツカタキバゴミムシ(Pl. II, fig. 7.)

VIII. 黒褐色、頭部は黒く、前胸は赤くて後方へ向ひ狭まり、基部兩側は明かに凹む。上翅は黄褐で虹様光澤があり、細く條刻され、第3間室は2點刻を具へる。觸角基節と肢は黄褐。4.5mm. 内外。色彩は一見 *Stenophus propinquus* MORAWITZ ヒメセグロツヤゴモクムシに似てゐる。(Subg. *Baudia* RAGUSA).



この種を包含する Licinini の種類は大腮を前から見ると厚さがあり圓まつて終つてゐる (fig. 8).

Harpalini. ごもくむし族

18. *Anisodactylus signatus* (ILLIGER, 1798) ゴミムシ

a1, b, c, d, e. IV, VII. (Subg. *Anisodactylus* DEJ. s. s.).

- ×19. *Anisodactylus tricuspidatus* MORAWITZ, 1863 ヒメゴミムシ

“黒色、觸角基部赤褐。胸背の側部は圓まり、後方狭まる。上翅は端部近くで波曲し、條刻は著しく、間室は小點刻を装ふ。第3間室は大點刻1を印する。前脛節の端棘は3尖形。10.5—12mm.” (Subg. *Anisodactylus* DEJ.).

20. *Harpalus discrepans* MORAWITZ, 1862 ハコダテゴモクムシ

VIII. 黒色で光澤がある。比較的胸背・上翅が短い。觸角・鬚・脛附節は赤褐色。胸背は長さの1倍半の幅があり、略々方形、前縁は深く彎入し前角圓まり、側部は軽く弧状をなして前方へ狭まり、後方へは殆ど狭まらず、基縁は略々眞直、後角は直角で圓まつてゐる。背面は弱く隆まり、基方は密にやゝ皺狀に點刻される。

小楯板上方の點刻はやゝ弱い。全縁にわたり弱い點刻を裝ひ、正中線は細く兩端消失する。基部兩側の縦溝は淺い。上翅は胸背の $2\frac{1}{4}$ 倍の長さで、肩に於て同幅、翅端で明かに波曲する。深く條刻され間室は細かく弱い點刻を裝ふ。翅の周縁及び中・後胸部側方は明かに點刻される。10.5mm。内外。(Subg. Harpalus LATR. s. s.).

21. Harpalus griseus (PANZER, 1797) ケウスゴモクムシ

h (tridens MORAWITZ). VII, VIII. 頭部背面は滑らかで毛を有せず、胸背の基部は密に點刻され黄毛を裝ひ、後角は鈍角であるが明か、背面は殆ど滑らかで縁部に沿ひ點刻される。上翅間室は密に點刻され黄毛を裝つてゐる。9—11mm。最も普通のゴモクムシの一つである。H. griseus が日本に産しないとする學者もあると土生氏⁽⁴³⁾は記してゐるが私はその様な文献を見ることが出来なかつたので従來の例にしたがつておく。(Subg. Pseudophonus MOTSCH.).

22. Harpalus sinicus HOPE, 1845 ウスアカゴモクムシ

(Syn. japonicus MORAWITZ, rugicollis MOTSCHULSKY?). VII, VIII. 黒乃至黒褐色。觸角・鬚・肢は赤褐色。頭楯の凹陷は深く孔をなす。胸背は幅長さの1倍半で前縁彎入し前角圓まり、側縁は細く縁取られ、前方へ弱く圓まり、後方へ少しく狭まる。後角の直前でかすかに波曲し、後角は直角で角は圓まる。基縁は略々一直線。背部は軽く隆まり、正中線は弱く兩端は消失する。基部は密に細かく點刻され、兩側の凹みは淺い。上翅は胸背の3倍の長さがあり、端部は明かに彎入する。深く條刻され、間室に點刻を欠く。前脛節の端棘は幅廣く、中央兩側に齒狀突起がある。11—13mm。(Subg. Pardileus GOZIS).

23. Harpalus tridens MORAWITZ, 1862 コゴモクムシ

(Syn. pecirkai JEDL.). VII. 暗褐乃至黒褐色、光澤がある。下面やゝ淡色、口器赤褐、觸角・肢は黄褐。頭部は背面略々滑らか、胸背は前方はかすかに彎入し前角はやゝ圓まり、側部は軽く圓まり、中央前又は中央で最も幅廣く長さの1倍半ある。後方へ向つてより強く狭まり後角はやゝ外方へ突出し略々直角をなす。基縁は直線狀、背面は軽く隆まり光澤があり略々滑らか。正中線は細く前後端消失する。基部は兩側又は全縁にわたり極めて密にやゝ皺狀に點刻され、點刻は側縁に沿ひ前縁へ分布する。基部の凹みはごく淺い。上翅は胸背の2倍半の長さで基部では胸背基部より廣い。翅端は波曲する。深く條刻され、内方の間室は光澤があり滑らか、外側のは基方や端部と同様に細かい點刻と細い黄毛を整ふ。前脛節端棘は3尖形をなす (fig. 9). 10—13mm. (Subg. Pardileus GOZIS).



以上の2種は極めてよく似てゐる。

24. Harpalus tinctulus BAILES, 1873 アカアシマルガタゴモクムシ (Pl. I, fig. 10.)

e? (*Amara zimmermanni* PUTZEYS). IV. 小形、黒褐色、雄の上翅は光澤があり、藍光澤をおびる。雌では光澤鈍く弱い緑光澤を認める。※ 鬚・觸角・肢は赤褐。胸背は方形で側縁は前方へ弱く圓まり、後方へかすかに狹まる。後角は略々直角。基部は密に小點刻を裝ひ、側縁部は赤味をおびる。上翅は強く條刻され、翅端は弱く波曲する。第3間室には後方第2條刻に接し1點刻がある。6—7mm. (Subg. *Harpalus* LATR. s. s.).

25. *Harpalus variipes* BATES, 1883 ハマベゴモクムシ (Pl. I, fig. 11.)

VII. 小形でやや細い長卵形、黒褐。觸角・鬚・脛跗節は黄褐色。頭部は小さく滑らか、前頭の凹陷は孔點狀。胸背は殆んど翅と同幅、側部は弧狀をなし前方へ少し強く狹まる。後角は鈍く圓まり、基部兩側の凹みは長形でまばらに點刻される。側縁は赤味をおびる。上翅は明かに條點刻され、間室は略々平たく、第3間室は後方に第2條刻に接し1點刻を有する。翅端は軽く斜に波曲する。7mm. 内外。原記には翅に銅光澤があること、中・後脛節の端部が暗色であること、第3間室には點刻を欠くことが記されており、同定をためらつてゐたが、阪口氏所蔵の矢野由雄氏蒐集標本及び寶塚昆蟲館所蔵の標本中“*variipes*”とラベルされたものと明らかに同一種なので一先づ上記の様に同定しておく。(Subg. *Harpalus* LATR. s. s.).

26. *Stenolophus propinquus* MORAWITZ, 1862 ヒメセグロツヤゴモクムシ (Pl. II, fig. 12.)

(Syn. *japanus* MOTSCH.). b, d, h?? IV. 黒色。觸角基部・肢は黄褐、前胸・上翅は橙黄色。胸背は略々方形で前部は略々切斷狀、側部は弱く圓まり、基部の兩側は軽く凹む。後角は圓まる。上翅の後方は莫然と暗色で青藍光澤をおびる。會合部は橙黄色、端部はかすかに波曲する。5—5.5mm.

Harpa'ini に屬するもので普通みられる 屬について 檢索表をつくつてみると次のようになる。

- 1 (4) 頭部は眼の後側方に細い直立毛を裝ひ、全背面は密に點刻され、胸背後角に直立剛毛を欠く。
- 2 (3) 跗節は上面に毛を裝ふ.....*Platymetopus*
- 3 (2) 跗節は上面に毛を欠く..... *Harpalus* (*Ophonus*)
- 4 (1) 後頭側部は毛を欠く、頭部は通常滑らかで無毛。
- 5 (6) 雄の前跗節は下面にブラシ狀に毛を密生する。頭頂には赤い2圓紋か1横紋を具へる。後跗節は細長く、第1節は續く2節を併せたものと略同長.....*Anisodactylus*
- 6 (5) 雄の前跗節下面には鱗狀毛を列生する。頭頂には赤い紋を欠く。
- 7 (14) 下唇鬚の亞端節は内側に數本の剛毛を有する。
- 8 (11) 跗節の上面に毛を裝ふ。
- 9 (10) 上翅全面・胸背の少くとも一部に毛を裝ふ.....*Harpalus* (*Pseudophonus*)
- 10 (9) 背面は上翅の側縁部の細毛の他に毛を有しない.....*Harpalus* (*Pardileus*)

※ 上翅は時に全く藍又は綠光澤を欠くことがあり SCHAUBERGER³³⁾ もその事を認めてゐる。この様なことは次に近べる *variipes* でも見られることである。

- 11(8) 跗節の上面に毛を欠く。
 12(13) 跗節は細長くなく、各節下面の両側には長毛は列生しない……………Harpalus in sp.
 13(12) 跗節は細長く、各節下面の両側に長毛を列生する。第1節は第2節より著しく長い……………Trichotichnus
 14(7) 下唇鬚の亞末端節は内側に唯2本の剛毛を有する。
 15(16) 跗節は上面に毛を装ふ、上翅は小楯板に沿ふ短い條刻を欠く……………Trichocellus
 16(15) 跗節の上面は毛を欠く。
 17(20) 後跗節は滑らかで單純、上翅は小楯板に沿ふ短い條刻を有する。
 18(19) 體は隆まり、前胸板前部は縁取られる……………Bradycellus
 19(18) 體は平たく、前胸板前部は縁取られない……………Acupalpus
 20(17) 後跗節は光澤を欠き、第1節は外側に細い縦條刻を有する。
 21(22) 上翅は小楯板に沿つた短い條刻を有する……………Stenolophus
 22(21) 上翅は小楯板に沿ふ短い條刻を欠く……………Anoplogenus

Chlaeniini. あをぐみむし族

27. Chlaenius inops CHAUDOIR, 1856 ヒメキベリアヲゴミムシ
 b, c, d (circumductus MORAWITZ). VII. この種の學名がキベリアヲゴミムシと逆になつてゐたことは土生氏⁴¹⁾が指摘してゐる。(Subg. Chlaeniellus REITT.).
 28. Chlaenius naeviger MORAWITZ, 1862 アトボシヲゴミムシ
 a, b, c, d, e, f??, VII. この種は C. posticalis とよく似てゐて圖では判別しにくい。後者では胸背に毛を欠き、點刻は密でなく且一様でないのに對し、この種では明かに毛を装ひ、點刻は可成り密で略々一様である。圖説類のアトボシゴミムシは大倉氏⁶²⁾の云ふ様にむしろ posticalis であらう。(Subg. Ilaenchus LUTSH.).
 ×29. Chlaenius Noguchii BATES, 1873 ノグチヲゴミムシ
 a, 2, c, e, f, h. VII. (Subg. Trichochlaenius SEIDL.).
 30. Chlaenius pallipes GEBLER, 1823 アヲゴミムシ
 b, c, d, e, g, h. IV, V. (Subg. Chinelaus LUTSH.).
 31. Chlaenius pictus CHAUDOIR, 1856 アトワヲゴミムシ
 VII. 頭部・胸背面は縁をおびた赤銅光澤を有し、頭部は細かく、胸背は粗くまばらに點刻される。胸背側縁は均様な弧狀をなし、後角は圓まる。上翅の後方にある黄褐紋の分枝は端部へ延び翅端會合部に達する (Pl. I, fig. 13.). 間室は光澤を欠き毛を伴つた小點刻を密布する。14mm. 内外。從來このものに micans (FABRICIUS, 1792) が當てられ、オホアトボシゴミムシに對して pictus が當てられてゐた※が矢野氏蒐集標本のラベルはその逆になつており、BATES⁶⁰⁾の論文を参照したところ pictus の翅端に comma shaped spot があると云ふ點、胸背が幅廣く側縁が均様に圓まり、又 abstersus BATES, 1873 が pictus に形が似てゐると云ふこと等變更を妥當と考へさせるので上記の様にしておいた。(Subg. Chlaenius DEJ. s. s.).

※ 大倉氏⁶²⁾の報文でもその様になつてゐる。

32. *Chlaenius posticalis* MOTSCHULSKY, 1854 キボシアラゴミムシ
(Syn. *hospes* MORAWITZ). VII. (Subg. *Ilaenchus* LUTSH.).

33. *Chlaenius xanthopleurus* CHAUDOIR, 1856 コキベリアラゴミムシ
a2, c, e, f, g, h. V. ANDREWES²⁾ は *C. circumdatus* BRULLE, 1835 の變種乃至地方型とした。(Subg. *Chlaenites* MOTSCH.).

Amarini まるがたごみむし族

34. *Amara chalcites* DEJEAN, 1828 マルガタゴミムシ

(Syn. *congrua* MORAWITZ, *striatella* PUTZEYS, ? *Zimmermanni* PUTZ., ? *japonica* MOTSCH.). a1, b, c, d, e, f, g, h. V. (Subg. *Amara* DEJ. s. s.).

Pterostichini ながごみむし族

35. *Caelostomus japonicus* TSCHITSCHERINE, 1898 ムネミゾマルゴミムシ
(Pl. II, fig. 14.)

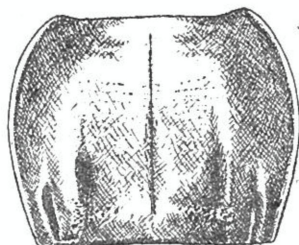
VII. “頭部は甚だ小さく、腹部は極めて大なるを以つて、不釣合に前方に尖つた形を呈し、又體の漆黑色なる事、兩鬚・觸角・脚及び翅鞘縁邊の赤褐色なる事、更に觸角が短かく漸く胸板後縁に達する事等により識別し易い。體長6.1—6.3mm.” (馬場⁴⁰⁾).

36. *Feronia caerulescens* (LINNE, 1758) キンナガゴミムシ

(Syn. *planicollis* MOTSCHULSKY). b, d, e, h (*encopoleus* SOLSKY). ※ VII. ANDREWES⁴⁾ は *planicollis* MOTSCH., 1860 のタイプを見て *caerulescens* と區別できないとのべてゐる。(Subg. *Feronia* LATR. s. s.).

37. *Feronia fortipes* (CHAUDOIR, 1850) オホキンナガゴミムシ

VII, VIII. 黒色、背面は通常緑乃至銅光澤をおびる。肢・口器・觸角は多少共褐色をおびる。長形、頭部は滑らかで兩側に縦の溝がある。胸背は長さの4程幅廣く、上翅よりかすかに狭い。中央前で最も廣く、後方へ略々直線的に狭まり後角はやゝ鈍角、側部は後端まで一様に狭く縁取られ、基縁は切斷狀、兩側の凹陷は點刻され各2條の深い縦溝を含む (fig. 15.)。上翅は強く條刻され、間室は微細構造が著しく雄では光澤があるが雌では之を欠く。第3間室は第3條刻に接し3點刻を有する。16mm. 内外。(Subg. *Feronia* LATR. s. s.).



Feronia s. s. に屬するものは他の *Feronia* とは觸角基方3節又は第2・3節が平壓されて、上縁が稜線をなすことで區別できる。

※ LUTSHNIK²³⁾ の檢索によると *encopoleum* は頭部背面が一面に點刻されており、背面が滑らかで僅かに弱い點刻と皺を伴つた *caerulescens* と區別される。

38. *Feronia microcephala* (MOTSCHULSKY, 1860) コガシラナガゴミムシ
(pl. II, fig. 16.)

(Syn. *nimbatus* MORAWITZ, *nimbaticia* CHAUDOIR). a2, b, c, d, f. IV.
CSIKI¹³⁰⁾ は亞屬に MOTSCHULSKY の *Ragadus* を採用し, STRANEO³⁵⁾ は之をも包容する廣義の *Badistrinus* MOTSCHULSKY を用ひてゐる。

39. *Feronia sulcitaris* (MORAWITZ, 1862) アシミゾナガゴミムシ

V. 黒色で光澤がある。觸角基方3節・鬚・肢は赤褐、觸角は暗褐、體下は黒褐、光澤は鈍い。頭部は滑らかで微細點刻を散布する。胸背は基部兩側に鋭い1縱溝を印する。側部はかなり強く圓まり、後角は鈍く殆ど圓まる(Pl. II, fig. 17.)。背面は滑らか。上翅は明かに條刻され、第7條は前方消失する。間室は隆まり、滑らか。第3間室は3點刻を印する。雄の前附節は1縱溝を有し、中・後附節も上部のみならず側方にも縱溝を具へる。8mm. 内外。(Subg. *Lagarus* CHAUD.).

ANDREWES⁶⁾ は BONELLI の命名した相當數の屬が記載に欠き ※從來用ひられた *Pterostichus* (BON.) STEPH. も *Platysma* SAMOUELLE でおきかへられねばならないとし、*Feronia* は *Platysma* に先行するが記述に効力がないと述べたが、その後⁹⁾ 屬命名規約委員會の結論にしたがひ、*Feronia* を認め *Carabus cupreus* LINNE, 1758 を type とした。之により (i) 今までの *Pterostichus*, *Platysma* は *Feronia* と改められ、(ii) 亞屬 *Poecilus* は *Feronia* s. s. に改められる。但し族名 *Pterostichini* はそのまゝ残される。

×40. *Trigonognatha cuprescens* MOTSCHULSKY, 1857 オホマルナガゴミムシ
(アシアカオホナガゴミムシ)

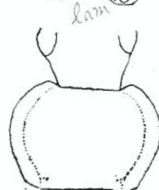
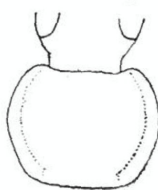
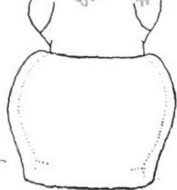
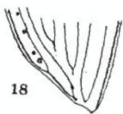
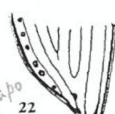
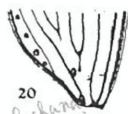
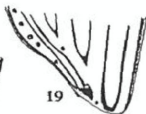
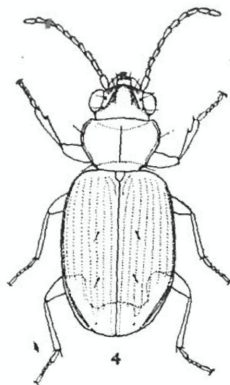
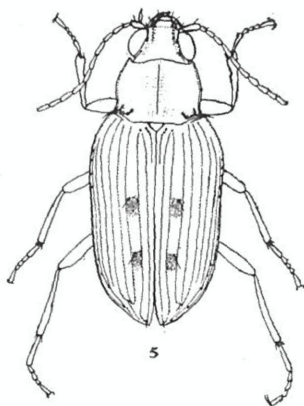
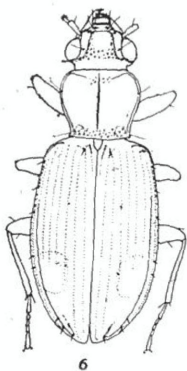
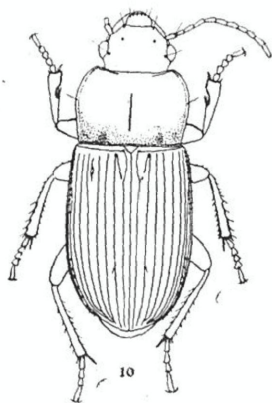
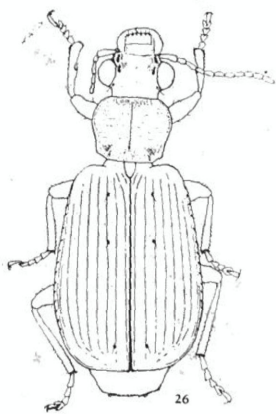
a2, c, f (*Curtonotus giganteus* MOTSCHULSKY). VII. 圖説に出てゐるオホマルナガゴミムシがこの種であると土生氏⁴²⁾ が指摘してゐる。

Agonini. ひらたごみむし族

41. *Agonum suavissimum* (BATES, 1883) ヒメセボシヒラタゴミムシ

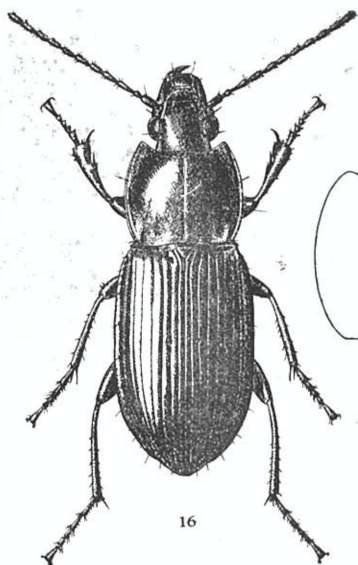
VIII. 細形、黒くて光澤がある。上翅はやゝ乳光澤がある。頭部卵形、胸背も卵形でやゝ長さより幅廣く、側部は一樣に弧狀を呈し、前角は明かに突出し、後角は全く圓まり、基部兩側の凹みは廣く浅い。正中線は細い。上翅は細長い卵形。翅端は弱く波曲し、翅底部の基線は肩部へ斜に延びる。點條刻は細いが鋭く、間室は平たく第3間室は3點刻を印する。附節は細く、中・後附節は光澤があり、兩側は廣く溝をなす。9mm. CSIKI¹³⁰⁾ によると *Europhilus* 亞屬に入るが手元の標本は第4節から(第3節からでなく)毛を密生してゐる。

※ ANDREWES, H.F. (1919): Notes on Bonelli's "Tableau synoptique." Trans. Ent. Soc. Lond. 1919.



[中根猛彦 論文附圖]

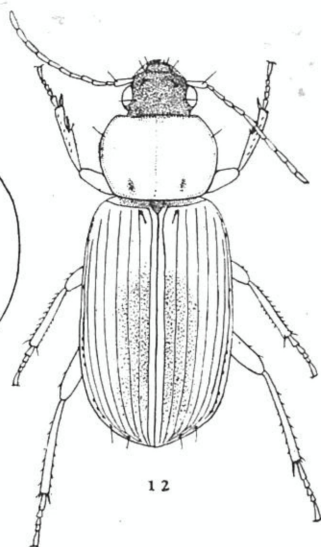
(Det. T. Nakane)



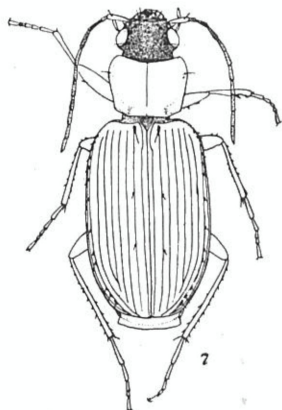
16



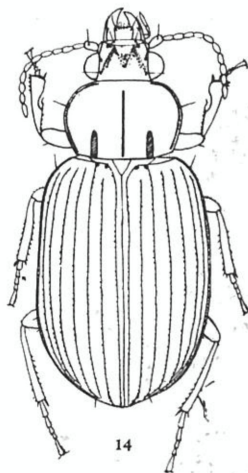
17



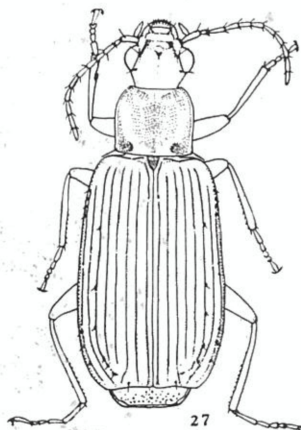
12



7



14



27

×42. *Calathus dulcigradus* (BATES, 1873) キベリクビナガヒラタゴミムシ

“細長、軽く隆まる。黒褐、觸角・肢・胸背縁部は淡褐色。胸背は方形で長幅略々等しく側縁は軽く弧状をなし、後角は極めて鈍く、背部は滑らか。上翅は端部は單に圓まり、背部は條刻され光澤がある。第3間室は2點刻を印する。中・後跗節は兩側溝をなす。8.5—9mm.” Zool. Rec. (1934) によると ANDREWES (Key to some Indian Genera of Carabidae (Col.). IV. The Genus *Calathus*. Stylops, London, 3. 1934) は屬 *Pristodactyla* DEJ. を *Calathus* DEJ. と併合してゐるらしい。

43. *Colpodes atricomus* BATES, 1873 クロモリヒラタゴミムシ

VII. ヒラタゴミムシによく似てゐるが小形 (12mm. 内外) で翅端が小齒狀に尖つてゐる (Pl. I, fig. 18, 19.).

44. *Colpodes buehanani* HOPE, 1831 オホアヲモリヒラタゴミムシ

(Syn. *splendens*, *amoenus* CHAUD.). VIII. (Pl. I, fig. 20, 21.).

45. *Colpodes japonicus* (MOTSCHULSKY, 1860) ハラアカモリヒラタゴミムシ

V. (Pl. I, fig. 22, 23.).

46. *Colpodes lampros* BATES, 1873 コハラアカモリヒラタゴミムシ

VII. (Pl. I, fig. 24, 25.).

以上の3種はよく似てゐて區別しにくい。近縁のものは HAROLD¹⁶⁾ にしたがへば次の様にして區別できる。

1 第4後跗節は2片狀で外片は内片より明かに長い……………2

第4後跗節は單に切れ込み短い等長の片をなす……………4

2 胸背後角は不明瞭、圓まる……………**lampros** BATES

胸背後角は明瞭……………3

3 胸背は幅より稍長く側縁は直角をなした後角の前方で明かに波曲する **buehanani** HOPE

胸背は長さよりはるか幅廣く、後角は鈍くてその前方で波曲しない。 **modestior** BATES

4 胸背は中央で最も幅廣く、前後へ同様に狭まる……………**japonicus** MOTSCHULSKY

胸背は中央前で最も幅廣く、後方へ前方へよりも強く狭まる……………5

5 眼は軽く張り出し、胸背後角は明かに尖る……………**hakonus** HAROLD

眼は強く張り出し、胸背後角は鈍い……………**speculator** HAROLD

尙 BATES¹⁷⁾ によると **hakonus** も又後角が鈍く圓まつたものが多いと云ひ、別に **modestior** に似た **aurelius** を記載してゐる。之は胸背がより狭くて幅廣の心臟形で上翅と共に金銅色を呈する點でちがふと云ふ。JEDLIČKA²¹⁾ は尙 **limbatus** JEDL. を記載してゐる。

47. *Crepidactyla nitida* MOTSCHULSKY, 1861 トガリヒラタゴミムシ

VII. 黒色で光澤がある。上翅は弱い虹様光澤をおびる。口器・觸角・跗節は褐色。胸背側部は弧状をなし、後角は圓まる。上翅は明かに條刻され、間室は隆まる。第3間室には2點刻がある。15—16mm.

48. *Dolichus halensis* (SCHALLER, 1783) セアカヒラタゴミムシ

al, b, c, d, e, f, g, h. VII. Zool. Rec. (1937) によれば JEANNEL, R. (Note sur les Carabiques. Rev. franç. Ent., Paris, 4, 1937) は日本から *halensis* の變種 *ruficollis*, *eohalensis* を記載してゐる。前者が胸背の赤い型であることは容易に推定されるが、一方 JEDLIČKA²⁰⁾ は舊北の *Dolichus* の検索を示し、四川・上海等から胸背の赤い *rufithorax*^{*} 及びその異常型 *ab. pictus* (翅に三角の淡色紋がある) を記載してゐる。この種の *halensis* と異なるところは胸背がより平たく、その基部の凹みが浅くて細かく且より皺少く點刻される點にあるとするが果して別種とすべきものかどうか疑はれる。尙、*halensis* に於て上記の異常型に當るものは *ab. maculatus* LETZNER, 1851[†] と稱する。

49. *Euplynes Batesi* HAROLD, 1877 ヒメセアカゴミムシ (ベーツヒラタゴミムシ)

e (*Planetes bimaculatus* MCLEAY?,) . VIII. 平たくて光澤があり無毛、淡赤褐色で上翅には肩部より後方へ延び途中で急に擴がつて會合線に達する暗色紋がある。頭部は滑らか、胸背は側部及び基部點刻され、基部兩側に浅い凹みがある。長さより幅がはるかに廣く、側方圓まり、前角圓く、後角は鈍角をなす。上翅は細く條刻され、條刻は軽く點刻される。間室は平たく滑らか、兩側に長形の凹みがある(第3—5條刻間、肩の下方から中央まで達する)。體下は滑らかで點刻を欠く。7mm. 内外。この属のものは全肢の第4附節が2片狀を呈する點で *Colpodes* と異なる。(BATES¹¹⁾)

Lepiini. あときりごみむし族

50. *Bothynoptera tripunctata* BATES, 1873 ミツアナアトキリゴミムシ (Pl. I, fig. 26.).

VII. 淡赤褐色、後頭部・胸背・上翅は暗褐色。眼は著しく突出し、頭部(頭頂の暗點を除く)と觸角は時に黄褐色。胸背は長幅略々等しく、方形で前方へ圓まり、後方へ波曲して狹まる。後角はやゝ突出するが基部側方が斜になつてゐるので鈍角。上翅は後方へ擴がり、翅端は鈍く切斷狀で波曲せず。背面は深く點條刻され、間室はまばらに小點刻を裝ひ、第3間室は3點刻を有する。縁部は多少共赤みをおびる。6.5—8mm. 矢野氏蒐集標本の同定ラベルは *B. perforata* BATES, 1873 と逆になつてゐた。*B. perforata* は背面淡褐色で極めて光澤があり、上翅の條刻は小點刻列に退化し、顯著な4大孔點を有し第1及び第2點は第3條線上、第3・4點は第2條線上に位する。

51. *Calleida onoha* BATES, 1873 アヲアトキリゴミムシ

c, e, f. IV, VIII.

52. *Dromius prolixus* BATES, 1883 ホソアトキリゴミムシ (pl. II, fig. 27.).

b, d. V, VII. 暗褐色、體下は赤褐、口器の一部・觸角・肢は黄褐色。頭部は小

さく卵形、鬚は細く尖る。胸背は狭い方形で前方へは弱く圓まり、後方へは殆んど狭まらないでやや波曲する。後角は略々直角。上翅は狭く長形、後方へ少しく擴がり翅端は直角に波曲して切斷され、條點刻される。間室はや々隆まり、細かく柔皮様構造を示し光澤がある。第7間室は相當數の點刻を具へる。6.5—7.5mm. 近似の *D. campanulatis* BATES, 1883 は胸背が鐘形で基方で擴がる。(Subg. *Dromius* LATR. s. s.).

53. *Lachnolebia cribricollis* (MORAWITZ, 1863) キクピアラアトキリゴミムシ
a2, c, d, e, f, g, h (*Dictya*). V. CSIKI^{13D}) にしたがひ屬をかへておく。

54. *Lebia bifenestrata* MORAWITZ, 1863 フタホシアトキリゴミムシ (ハネビロヒメゴミムシ)
a2, b, c, d. VIII. (Subg. *Lebia* LATR. s. s.).

var. *lucescens* BATES, 1873 翅端に淡色の横帶を有する。

55. *Lebia retrofasciata* MÖTSCHULSKY, 1861 ジフジアトキリゴミムシ
(Syn. *japonica* CHAUDOIR). al, b, c, d, e, f, g, h (*japonica* CHAUD.). V, VIII. ANDREWES⁹) にしたがつて上記の學名を用ひる。(Subg. *Lebia* s. s.).

×56. *Parena nigrolineata* (CHAUDOIR, 1852) タデスデアトキリゴミムシ
(Syn. *latecincta* BATES). a2, b, c, d, e, f, h (*latecincta* BATES). VII. 屬は CSIKI^{13D}) 及び土生氏⁴⁵⁾ にしたがつておく。種名は ANDREWES⁹⁾ によつた。

57. *Parena monostigma* (BATES, 1873) ヒトツメアトキリゴミムシ •

e (*Lebia japonica* CHAUD. 變種)。細形で黄褐色、光澤がある。胸背は餘り廣くなく、頭と略々同幅、側縁は比較的狭く中央前で弱く角をなし、後角前で波曲する。後角は略々直角で軽く突出する。表面はまばらに點刻される。上翅は胸背の2倍の幅があり長卵形、強く點條刻され、第3・4條は縦の間に含まれる。間室は細かい點刻を散布し、第3間室は5(野尻産3)大點刻を印する。卵形の黒紋が會合部中央後にあり、時に會合線に沿ひ前方へ延びる。7mm. 内外。

Brachinini. ほそくびごみむし族

58. *Pheropsophus jessoensis* MORAWITZ, 1862 ミキデラゴミムシ
al, b, c, d, e, f, g, h. VII. (Subg. *Pheropsophus* SOL. s. s.).

以上はんめう科1屬3種、をさむし科13族29屬35種をあげた。中7種は現在標本を持たない。

直接参考文献 (末尾のカッコ内は文献所在)

1. ANDREWES, H. E. (1919) : Papers on Oriental Carabidae. — I. Ann. Mag. Nat. Hist. (9) III. 1919. (東理動)
2. (1921) : Notes on Synonymy and on some Types of Oriental Carabidae in various foreign collections. Trans. Ent. Soc. Lond. 1921. (東農動)

3. (1929) : The Fauna of British India, including Ceylon and Burma. Coleoptera. Carabidae. Vol. I.—Carabinae. London. (戸澤氏)
4. (1933) : On the Types of Oriental Carabidae described by V. de Motschulsky. (Part II). Trans. Ent. Soc. Lond. 1933. (東農勳)
5. (1934) : On the Genotypes of British Carabidae. Ent. Month. Mag. LXX. 1934. (東農勳)
6. (1935) : On the Genotypes of British Carabidae.—II. Ann. Mag. Nat. Hist. (10) XVI. 1935. (東理勳)
7. (1935) : The Fauna of British India, including Ceylon and Burma. Coleoptera. Carabidae. Vol. II.—Harpalinae.—I. London. (戸澤氏)
8. (1937) : Key to some Indian Genera of Carabidae (Col.). VII. The Genus *Feronia*. Proc. R. Ent. Soc. Lond. (B) 6. Pt. 1. 1937. (東農勳)
9. BATES, H. W. (1873) : On the Geodephagous Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Soc. Lond. 1873. (東農勳)
10. (1876) : Additions to the List of Geodephagous Coleoptera of Japan, with synonymic and other Remarks. Trans. Ent. Soc. Lond. 1876. (東農勳)
11. (1883) : Supplement to the Geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the Collection of Mr. George Lewis, made during his second Visit, from February, 1880, to September, 1881. Trans. Ent. Soc. Lond. 1883. (東農勳)
12. (1888) : On a Collection of Coleoptera from Korea (Tribes Geodephaga, Lamellicornia, and Longicornia); made by Mr. J. H. Leech, F. Z. S. Proc. Zool. Soc. Lond. 1888. (東理勳)
13. (SIKI, E. (1927—1933) : Coleopterorum Catalogus auspiciis et auxilio W. Junk editus a S. Schenkling. Carabidae. (農試昆)
 - a) Vol. I. Carabidae I: pars. 91: Carabinae I. (1927).
 - b) Vol. I. " I: pars. 92: Carabinae II. (1927).
 - c) Vol. II. " II: pars. 97: Mormolycinae, Harpalinae I. (1928).
 - d) Vol. II. " II: pars. 98: Harpalinae II. (1928).
 - e) Vol. II. " II: pars. 104: Harpalinae III. (1929).
 - f) Vol. II. " II: pars. 112: Harpalinae IV. (1930).
 - g) Vol. II. " II: pars. 115: Harpalinae V. (1931).
 - h) Vol. III. " III: pars. 121: Harpalinae VI. (1932).
 - i) Vol. III. " III: pars. 124: Harpalinae VII. (1932).
 - j) Vol. III. " III: pars. 126: Harpalinae VIII. (1933).
14. HAROLD, E. V. (1877): Beiträge zur Käferfauna von Japan. (Zweites Stück) Japanische Käfer des Berliner Königl. Museums. Deutsche Ent. Zeitschr. XXI. 1877. (東農勳)
15. (1878) : Beiträge zur Käferfauna von Japan (Viertes Stück) Japanische Käfer

- des Berliner Königl. Museums. Deutsche Ent. Zeitschr. XXII. 1878. (東農助)
16. (1878) : Ueber einige japanische Colpodes-Arten. Deutsche Ent. Zeitschr. XXII. 1878. (東農助)
17. HEYDEN, L. V. (1879) : Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874—1875. Deutsche Ent. Zeitschr. XXIII. 1879. (東農助)
18. JEDLIČKA, A. (1928) : Nene palaarktische Carabiden. Ent. Mitt. XVII. 1928. (動物會)
19. (1933) : Bestimmungstabelle der mir bekannten Bembidion-Arten aus China. Cas. Cs. Spol. Ent. XXX. 1933. (動物會)
20. (1936) : Über palaearctische Dolichus-Arten. Cas. Cs. Spol. Ent. XXXIII. 1936. (動物會)
21. (1936) : Neue Colpodes-Arten aus Japan. Cas. Cs. Spol. Ent. XXXIII. 1936. (動物會)
22. LINDROTH, C. H. (1935) : The British Species of Ophonus Steph. Ent. Month. Mag. LXXI. 1935. (東農助)
23. LUTSHNIK, V. (1913) : Revision des especes russe du sousgenre Poecilus (Bon.) voisines de Platysma cupreum L. (Coleoptera, Carabidae). Rev. Russe d'Ent. 13. 1913. (動物會)
24. (1913) : Remarques sur quelques especes du genre Platysma (Bon.) Tschitsch. de la faune palearctique (Coleoptera, Carabidae). Rev. Russe d'Ent. 13. 1913. (動物會)
25. (1914) : Note sur les Platysma (Bon.) Tschitsch. de la collection de V. Motschulsky. I. Feroniomorpha Sol. et Poecilus Bon. Rev. Russe d'Ent. 14. 1914. (動物會)
26. (1914) : Diagnoses praecursoriae formarum novarum subgeneris Poecilus (Bon.) (Coleoptera, Carabidae). Rev. Russe d'Ent. 14. 1914. (動物會)
27. (1916) : Analecta Synonymica de quibusdam Platysmatinis (Coleoptera, Carabidae). Rev. Russe d'Ent. 16. 1916. (動物會)
28. (1933) : Synopsis subgenerum palaearcticorum generis Chlaenius Bon. Cas. Cs. Spol. Ent. XXX. 1933. (動物會)
29. MORAWITZ, A. (1863) : Beitrag zur Kaferfauna der Insel Jessé. Mem. Acad. Imp. Sc. Petersb. VII. Ser. VI. 3. 1863. (湯淺氏)
30. MOTSCHULSKY, V. de (1854) : Diagnoses de Coleopteres nouveaux, trouves par M. M. Tatarinoff et Gaschkewitsch aux environs de Pekin. Etudes Ent. II. 1854. (農試昆)
31. MROZEK—DAHL, T. (1923) : Die Tierwelt Deutschlands und der angrenzenden Meeressteile nach ihrer Merkmalen und ihrer Lebensweise. 7 Teil. Coleoptera oder Kafer. I: Carabidae (Laufkafer). Jena. (戸澤氏)
32. REITTER, EDM. (1908) : Fauna Germanica. Die Kafer des Deutschen Reiches. I. Bd. Stuttgart. (戸澤氏)

33. SCHAUBERGER, E. (1932): Zur Kenntnis der palaarktischen Harpalinen. (Zehnter Beitrag). Wien. Ent. Zeit. 49. 1932. (東農動)
34. (1933): Zur Kenntnis der Palaarktischen Harpalinen. (Zwölfter Beitrag). Wien. Ent. Zeit. 50. 1933. (東農動)
35. STRANEO, S. L. (1936): Note sui Platysma paleartici. 3a. Ann. Mus. Civ. Genova, LIX. 1935-37. (東理動)
36. YANO, Y. (1941): A List of Carabidae from Corea. Nippon no Kochu, IV. 1. 1941.
37. 馬場金太郎 (1937): マガタマハシメウの形態と分布並に分類上の位置に就いて. 昆虫 XI—5. 1937.
38. (1938): マヒマヒカブリ亜属の分類と分布. 昆虫 XII—6. 1938.
39. (1939): マヒマヒカブリ亜属の研究 (I) 生態に就いて. 昆虫 XIII—2. 1939.
40. (1940): 佐渡島の歩行虫. 關西昆報 X—1. 1940.
41. 土生昶申 (1941): 數種の北海道産歩行虫に就て. 昆虫界 IX—91. 1941.
42. (1942): Curtonotus (Paracurtonotus subgen. nov.) giganteus Motschulsky に就いて. 昆虫界 X—102. 1942.
43. (1942): 三宅島の歩行虫. 昆虫 XVI—2. 1942.
44. (1944): 日本産ゴミムシ類學名覚え書き. 昆世 XLVIII—564. 1944.
45. 藤田與佐衛門 (1941): 北海道産ソサムシ族 (第一報). 虫の世界 IV—1/2. 1941.
46. 神谷一男 (1933): 日本産甲虫類圖譜 (四). 日本の甲虫 II—2. 1938.
47. 鹿野忠雄 (1923): 朝鮮産斑黠歩行虫既知目錄. 昆世 XXVII—315. 1923.
48. (1924): 増補訂正朝鮮産斑黠歩行虫目錄. 昆世 XXVIII—326. 1924.
49. (1924): 日本産歩行虫學名の變更に就いて. 昆世 XXVIII—326. 1924.
50. (1924): 日本産ヨツボシゴミ属 (歩行虫). 昆世 XXVIII—328. 1924.
51. 松村松年 (1916): 日本昆虫總目錄 第二卷 甲虫之部 (Catalogus Insectorum Japonicum. Vol. II. Coleoptera.)
52. 三輪勇四郎 (1936): 日本動物分類 No. 8. 斑黠科. 東京.
53. (1937): Damaster (マヒマヒカブリ) の分布に關する調査. 日本の甲虫 I—2. 1937.
54. 澤野十藏 (1941): ニハハシメウの一、二の形態上の知見について. 自然研究 8. 1941.
55. 田口萬壽男 (1933): ジウソゴミムシ及びヨツボシゴミムシの斑紋及び變形に就いて. 昆虫界 I—1. 1933.
56. 戸澤信義 (1933): 歩行虫の智識 (一). 關西昆雜 I—1. 1933.
57. (1933): 歩行虫の智識 (二). 關西昆雜 I—2. 1933.
58. (1934): 歩行虫の智識 (三). 關西昆雜 II—1. 1934.
59. (1935): 歩行虫の智識 (四). 關西昆雜 III—1. 1935.
60. (1941): 宮崎縣佐伯地方の歩行虫. 關西昆報 XI—2. 1941.
61. WINKLER, A. (1930): Die Tierwelt Mitteleuropas. V. Bd. 2. 1. f. Insekten. 2. Teil. Coleoptera. Leipzig. (Adephaga).

62. 大倉正文 (1946) : 大阪附近産アロヨミムシ屬に就いて. 近畿甲虫同好會會報 I—1. 1946.

圖 說 明 (Explanaton of Figures.)

1. *Carabus* (*Hemicarabus*) *tuberculosus*, 右前脛節; 2. *C.* (*Ohomopterus*) *Albrechti*, 右前脛節; 3. *Dyschirius aeneus*, 頭部背面; 4. *Bembidion niloticum*; 5. *B. stenoderum*; 6. *B. thermarum*; 7. *Badister nigriceps*; 8. *B. nigriceps*, 頭部前面; 9. *Harpalus tridens*, 右前脛附節; 10. *H. tinctulus*; 11. *H. variipes*; 12. *Stenolophus propinquus*; 13. *Chlaenius pictus*, 右上翅端部; 14. *Caelostomus japonicus*; 15. *Feronia fortipes*, 胸背; 16. *F. microcephala*; 17. *F. sulcitaris*, 胸背略圖; 18. *Colpodes atricomus*, 左上翅端部; 19. *Agonum protensum*, 左上翅端部; 20—21. *Colpodes buchanani*, 左上翅端部と胸背略圖; 22—23. *C. japonicus*, 左上翅端部と胸背略圖; 24—25. *C. lampros*, 左上翅端部と胸背略圖; 26. *Bothynoptera tripunctata*; 27. *Dromius prolixus*. (Jan. 1947.)

這記: 本文提出後, 竹内吉藏氏の御好意で JEANNEL, R. の Notes sur Carabiques (Deuxieme note). (Rev. Franc. d'Ent. IV, 2, 1937.) を讀むことができたが, 之によると *Dolichus halensis* (SCHALLER) は次の4變種に分けられる.

1. 胸背は黒く, 縁のみ黄褐色.
 2. 上翅黒色 (日本, アシヤ, 歐洲) var. *flavicornis* FABR.
 - 2'. 上翅は黒く, 會合部に大きな暗赤色の斑紋を具へる (日本, アシヤ, 歐洲) var. *halensis* s. str.
 - 1'. 胸背は全く赤褐色.
 3. 上翅は全く黒色 (日本, 極東) var. *ruficollis* JEAN.
 - 3'. 上翅は黒く, 會合部に大きな暗赤色の斑紋を具へる (日本, 極東) ... var. *eohalensis* JEAN.
- 野尻産の3標本は夫々 *halensis* s. s., *flavicornis*, *ruficollis* に當る個体である. (Oct. 1947.)

Chaetocnema granulosa (BALY) 本州に産す

(Chrysomel. Haliicinae)

中 根 猛 彦

この種類は從來九州及び臺灣から知られているが, 大澤省三君が持参された標本の中に次の標本があつたので, 本州にも産することを報告しておく, 四國にも當然産するものと思はれる.

和歌山縣新宮 (Singu, S. Kii, Honshu), VI—VII. 1946. O. Nisigaido leg.

野尻湖畔の甲蟲類(2)
— 擬天牛科・埋葬蟲科 —
中 根 猛 彦

ON THE COLEOPTEROUS INSECTS OF NOZIRI.

(N. SINANO, JAPAN.) (I)

— OEDEMERIDAE, SILPHIDAE. —

By TAKEHIKO NAKANE.

野尻で今までにとれたカミキリモドキ及びシテムシ類は夫々7種と10種であるが何れもよく知られた種で特記すべきこともないのでここには單に種名を擧げるに止める。

Family OEDEMERIDAE かみきりもどき科

1. *Xanthochroa waterhousei* HAROLD アチカミキリモドキ V, VII. 2 Ex.
2. *Xanthochroa luteipennis* MARSEUL キバナカミキリモドキ VII, VIII. 4 Ex.
3. *Xanthochroa hilleri* HAROLD キイロカミキリモドキ
4. *Patiala deformis* LEWIS ハラグロカミキリモドキ

野尻では前種よりも普通に得られる。

5. *Chrysanthia viatica* LEWIS スヂカミキリモドキ VII. 15 Ex.
6. *Oedemera (Oedemeronia) lucidicollis* MOTSCHULSKY モモアトカミキリモドキ V, VII. 11 Ex.

7. *Oedemera (Oedemeronia) manicata* LEWIS キアシカミキリモドキ VII. 1 Ex.

上記の同定は主として河野博士の日本動物分類によつた。野尻ではなほ數種を加へうる可能性があるが、未だに採集されてゐない。

Family SILPHIDAE しでむし科

野尻ではシテムシ亜科 *Silphinae* のもののみしか得られてゐない。

1. *Silpha (Thanatophilus) auripilosa* PORTEVIN ヒメヒラタシテムシ ※
 2. *Silpha (Xylodrepa) sexcarinata* MOTSCHULSKY ヨツボシヒラタシテムシ V. 1 Ex.
 3. *Silpha (Eusilpha) japonica* MOTSCHULSKY オホヒラタシテムシ VIII. 2 Ex.
 4. *Silpha (Calosilpha) brunneicollis* KRAATZ ベツコウヒラタシテムシ ※
 5. *Necrodes (Protonecrodes) nigricornis* HAROLD モモアトシテムシ VII. 1 Ex.
 6. *Necrodes (s.str.) asiaticus* PORTEVIN オホモモアトシテムシ ※
- この種の報告は疑問である。
7. *Nicrophorus maculifrons* KRAATZ マヘモンシテムシ ※
 8. *Nicrophorus concolor* KRAATZ クロシテムシ VII. 1 Ex.
 9. *Nicrophorus japonicus* HAROLD ヤマトモンシテムシ ※
 10. *Ptomascopus morio* KRAATZ コクロシテムシ ※

手許にある野尻のシテムシ科は極めて貧弱なので、今までに報告されたものを加へておいた(※印のもの)。之らは主として戦災のため標本のなくなつたものである。